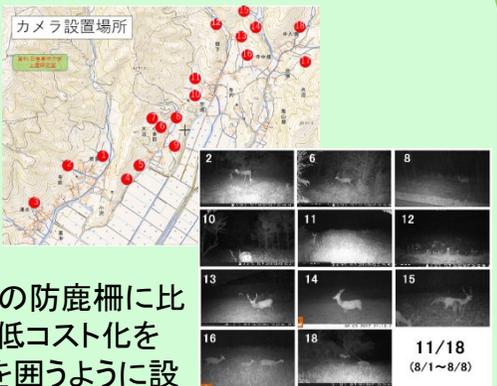


地域で取り組む被害防止対策(宮城県石巻市稲井地区)

- 農業のみならず自動車との衝突事故の発生等、地域に多大な影響が出ていたことから、区長会等で対策の実施について要望が出され、地区でニホンジカ対策協議会を設立
- 地域住民を対象とした勉強会や、専門家や猟友会と連携した生息数調査や被害防止対策を実施
- 市販の防鹿柵と比較して強度の遜色がないことから、使用済み漁網を有効活用し、広範囲に低コストで侵入防止柵を設置して効果を発揮

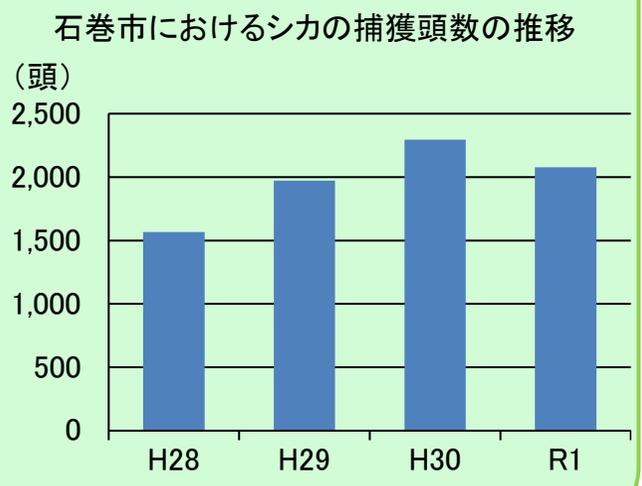
取組内容

- 地域住民の意識醸成
生息状況や被害の実態を把握するため、センサーカメラを地区内に設置してシカの生息状況や動向を調査し、結果については専門家主導の研修会により共有。直接被害に遭っていない住民へ意識付け
- 中古漁網を活用した侵入防止柵の設置
市内で廃棄されている使用済み漁網は、市販の防鹿柵に比べて強度に遜色がなく、資源の有効活用及び低コスト化を図るため、漁協等から無償譲渡を受け、集落を囲うように設置。週に1回、地域住民が交代で見回りする体制を構築
- 大型囲いわなの設置
設置方法等について専門家や猟友会にアドバイスを受けて設置。
地域の生産組織の協力を受け、誘引エサとしてくず大豆を活用する等、地域の関係者が連携して対策を実施



成果

- 防鹿柵の設置以降、農作物被害・交通事故発生等の実害の声が減少
- 本地区の協議会の取組を県で発信し、他地域での対策協議会の設立や取組に繋がるなど、高い波及効果



地域で取り組む被害防止対策(宮城県石巻市稲井地区)

きっかけ・背景

- 個人や生産組織が、各々ほ場の周りに柵を設置していたが、地域全体の取組ではなかったことから効果は限定的

課題

- 被害を受けている農業者と被害を受けていない住民で温度差があり、対策の必要性について、共通認識を持つ必要

Step1 住民の意識醸成 (H29)

- 地域全体にセンサーカメラを設置し、集落のどこにシカが出没しているのか調査
- 結果、ほとんどのカメラでシカが撮影され、研修会で説明したことで、対策の必要性を地域全体が理解

Step2 侵入防止柵の設置 (H30~)

- 使用済み漁網を漁協や漁網メーカーから無償で譲り受け、集落共同作業で「集落囲い」を実施
- これまでは個人のついでで中古漁網を確保してきたが、市・漁協・農協等が一体となり、共同で譲り受ける体制を構築

Step3 捕獲(R元~)

- 大型囲いわなを設置し、捕獲を実施
- 効率的に捕獲が行えるよう、地域住民・猟友会・山岳団体に協力し大雨等で崩れた山道を整備

取組の特色

- 地域で開催するハイキングイベントや区長会において、地域内外の人に地域資源としてジビエ料理を提供し、ジビエ料理の普及に取組
- 対策協議会の目的として、農林業の被害防止だけでなく、交通事故防止や健康被害対策(山蛭・マダニ対策)も掲げており、農業者だけでなく、地域全体の課題として認識してもらえるよう活動

取組による成果・効果

- 侵入防止柵の設置後は、農作物被害・交通事故ともに大幅に減少
- 地域の女性にも侵入防止柵の設置等の作業に参加してもらい、作業の後にお茶を飲んだり食事したりと、住民同士の交流も図られ、コミュニケーションも活発に



地域住民に対する研修会の様子



作業後の食事会